

デンタルタイムズ

第17号
藤田里枝

フリーストクラス級?



春爛漫。新たな気持ちで
若松を盛り上げていこうと
思う今日この頃。すでに



ご利用いただいている新ユニット
(治療用の椅子)のこぼれ話を
十五号で登場した出戻りリス



ターズの時田が紹介します。
昨年十月十八日(晴れ)
今までになく考えの
歯科用ユニットを
若松に設置しました。



なんと、今回はシート
デザインの決定に
院長が参加しました。
スタッフは、大はしゃぎで

人に優しい工夫が満載で、

我先に座り心地を確かめたのは

言うまでもありません。

先生が、ニコニコしながら

「フカフカレマーマ

すごいだろ。」

と、自慢げに言うとき...

そこは若松スタッフ。

「なんか、お尻がさげる。」

「足が、浮いちゃう。」

決して素直には

褒めません。



しかし、ユニットが

倒れ、なんとも言えない

フカフカ感に包まれると

スタッフ達は次々と

「これが、歯医者者の椅子?」

「若松、ここで寝ていていい?」

今日は、このまま働きたくない

とにひく「シ・ア・ワ・セ」の

一言に尽きます。

すると先生は

「硬い椅子は辛いけど

柔らかすぎるのも沈んで

身体が動けなくなるため

良くないんだよ。」

と話し始めました。

「お年寄りも増えてきたし

これが新しく開発中の



柔らかさなんだ。

さらに「それぞれの

ユニットの硬さと形状を

実は、微妙に変えてあるんだよ

しばらく使ってからベストなものを

選ぶのかと業者と思案中なんだよ。

と、いつものウンチクが...



「ベットの硬さに好みがある
のと一緒でベストと
言っても難しそうだよ」

「そうなんだ。万人に
合うのは無理かも

しれないが、より多くの
人が、よりリラックスして

受診できるようにね。」

「せんせーっ この色も
素敵じゃないですか！」

一週間ほど前に膨大な数の

サンプルを取り寄せて

シートの色を決めていた時は

スタッフの好みは超バラバラ。

なかなか決まらず

どうなることかと...

なんせ歯の一部分を治す

のにも、微妙に違う白色を

4から5色使って治す先生の

色へのこだわりは、

人一倍なのです。

若松の院内の配色を見ればわかると

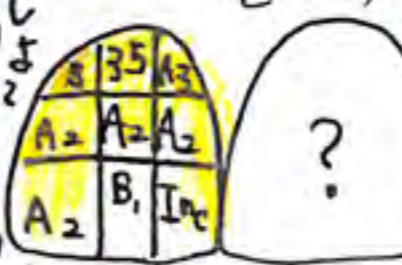
思います。スタッフばかり、歯医者

らしくらぬ「癒し系」の

色使いには、いつも

感じています

たとえば「秋」!



ハロウィンの

飾りつけでオレンジ

いっぱいになる十月の

夕方4から5時ごろは、

柔らかい西日が入ると

働いているのも忘れられるほど

穏やかな空気に包まれ

「ここはどこ?」状態になります。

まさに、光と色のマジックです。

朝・昼・夜・刻々と

微妙に変わる色合いに

先生も相当悩んでいました。

そんな色の変化に調和させ

出来上がったシートを見て

「いい感じね!」と

全員で納得していました。

ちなみ今回のユニットは、



実は、三代目です。

新ユニットになるときは

いつも弾むものですが

同時に先代のユニットに

感謝する気持ち

もわいてくるのです。

なぜならば、今までの

ユニットがあったからこそ

生まれた様々な工夫の結晶だからです。

テーブル部分がカートタイプになり

車いすの方の移動もスムーズ

になりました。

ゴミの分別カップや

先生が十年前に考案

した安全装置もさらに

バージョンアップしました。

さらに、設置中の写真を見て



出戻り隊長
みちえです!!
3 come back



NEW
ユニット
出戻り隊長
みちえも
3代目



びっくりすることがありました。

十人ほどの人たちが

ばらばらのパーツを

運びこんで若松の中で

組み立てていたのです。

つぎリ工場を組み立てたものを

運んでくるのかと思っていたのに...

さらにユニットの内部は驚くほどの

電子機器がびっぴりで、

ユニット1台で

高級車1台分の

価格というのも

うなずけました。

重さも重量級で、

大人四人でやっと

動かせるほどでした。

この様に影の努力に



支えられながら

今の若松があるのだと

感謝の気持ちで

いっぱいになりました。

うれしさをかみしめているのも

つかの間、院長は設置された

ユニットを見ながら次の

改善案を業者さんに

伝えていました。

さすが発明家です。

しかも今回は、デザイン

までも兼任するなんて...

四代目ユニットが、完成するのは、

何年後でしょうかね。

もうしばらく若松で

私も頑張らなくては...

文|| 蒔田里枝



4代目

さらばじゃ!!
まじ会お!!



いつも
ありがとう!!

つぎは1級？

3月21日 春分の日

雨のち突風のち吹雪

小島一家は、スキー場に行った。

十年前、息子が5歳の時に

再チャレンジし、見事にハマった。

女房が札幌にいたこともあって

彼女が猛特訓を受け、常に

息子よりちょっとだけ出来る

かっこいいお父さんを演じてきた。

土曜の診療終了後、雪山を目指し

車中泊をし、日曜の

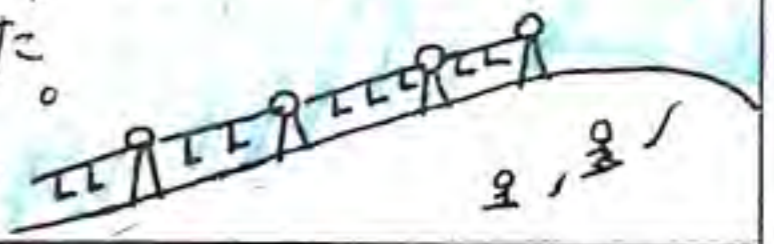
午前中だけ滑って

午後は温泉に入る

という幸せな日々だった。

ところが、息子のみならず娘

までもが私を振り出し始めたのではない



もはや中子の息子は、滑るのではなく

スキーを履いたまま空を飛び

エアーを決めている。

滑りながらビデオ撮影

しようとするのであつと

いう間にモニターから消えていく。

昔のかっこいいパパを取り戻すべく

スキーの検定試験を家族で

受けることを提案した。

スクールに入り

基礎のらやり直しま

45歳のおじさんの

肉體改造計画を密かに行った。

毎週リフトが止まるまで

フォームの調整をした。

インストラクターからも「お父さんは

うまい！」のお墨付をもらった。



評価点で息子をぶち抜く用意は整った。

にもひかわらず、何だ、このべた雪は！

いや、最悪のコンディションは

息子も同じはずだ！

歯を食いしばりながら滑るも

雪面に力が伝わらない。

結果は、女房には勝つたが

息子には1ポイント負け、娘と同点。

家族全員、2級をゲットしたものの

娘の前でかっこいいパパの

演出は残念ながら出来なかった。

露天風呂につかりながら

「そうだ！息子に内緒で

マウスピースを作ろう！」

姑息な作戦を考えたのは

やはり歯科医師だからか？

文リ院長 小島

